

令和5年度 授業改善推進プラン 家庭科

家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通して生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目標とする。

○知識・技能

- ・調理や製作の学習に意欲的に取り組む姿が見られる。基礎的、基本的な知識及び技能を一人一人が身に付けることができるように、ポイントをおさえた指導をし、見通しをもって活動できるようにする。完成した作品が生活に役立つものとなるよう、また技能の定着を図るためにも、簡単なものづくりなどの体験学習を繰り返し行う。

○思考・判断・表現

- ・興味をもって学習し、分かったことやできるようになってきたことが増えている。日常の中から、自分の課題を見つけたり、自分が考えたことや気付いたりしたことを表現できるように支援していくようにする。また、生活についての見方、考え方の視点を提示し、気付きを増やしていくようにする。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・調理や製作の学習において、自分なりの工夫をしようとする姿勢が多く見られる。より多くの確かな知識が身に付くよう、調べ学習などの自主的学習も取り入れるようにしたり、家庭の協力を呼びかけ、日常的に家庭実践に取り組んだりする。そして、自分や家族の生活をよりよくしようとする実践的態度を身に付けさせる。

5年

- ・これまでの学習を家庭科につなげ、2年間の見通しをもち自分なりの目標をもてるようにする。
- ・「生活を見つめ、できることを増やしていこう」と働きかけ、手縫いや、ミシンの基本的な縫い方を習得し、布を用いた簡単な小物作りを楽しむ。
- ・快適な住まい方や、日常の衣服の働きなどに関心をもつことができるようにする。
- ・調理に必要な基本的な知識や技能を身に付け、栄養バランスのよい食事について考えさせる。
- ・ICTを利用して、資料を提示したり、児童同士の考えを共有したりする工夫を行う。
- ・自分の生活と環境身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できるようにする。
- ・家庭には自分や家族を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事をすすんでできるようにする。

6年

- ・「くふうして生活に生かそう」と働きかけ、5年で学習してきたことを繰り返しふり返り、日常生活のどこでどのような知識や技能を活用すればよいか判断し工夫できるようにする。
- ・安全で正しい知識や技能が用いられるように支援したり、友達同士で話し合ったりして、家庭生活を大切にしている心情をはぐくみ、生活をよりよくしようとする実践的態度を育てる。
- ・2年間の学習を振り返って中学校の学習に生かしていけるようにする。